



2-6 高大連携 LAC 特別講座 生徒たちの感想より (原文そのまま載せています)

2-6

・この講義を受けて私は中村准教授が言っていたことのほとんどが今までできていなかったなと思いました。また、あまり読み手に合わせて言葉変えたりもしなかったなと思いました。今回の講義はその認識を大きく変えたと同時に、自分の課題を明確にしたと感じました。

・私は英語の訳をするとき、訳を終わらせることが目標になっていて、終わったことに満足して、いつもそのまま終わらせてしまっていました。しかし、プロの人ほど何度も何度も確認をするのだと知りました。また翻訳をするときに注意すべきポイントについても学びました。その中でも私が一番大事だと思ったのは「省略できるところは省略する」ということです。

・「原文に正確な内容で」「目的を受け身に合わせる」「表現を上手に」この3つは先生がおっしゃった大切なことです。しかし、改めてみると意外と普通のことです。日本語でも同じことが言えると思います。

・今日の講義を聞いて、日々の英語の授業をがんばろうという気持ちになりました。

・今まで苦手だという理由で日本語訳をダラダラとしていることもあり、きれいな日本語訳ができずに諦めていたけれど、プロの通訳士ほど何度も何度も訳し、きれいな日本語訳を直していくと学習できたので、今後は1回訳してきれいにいかなくても嫌だと思わず、何度か訳してみてもうまくいくよう回数をこなしていこうと刺激を受けました。

・翻訳するのに必要なのは完璧さだけではなく、文を読みとる人への配慮が必要だとわかった。英和和英訳だけで終わらせず、推敲を繰り返してやっと翻訳ということを学んだ。

・和訳をするとき、いつも私は英語の文を正しくそのまま翻訳していました、相手に翻訳した内容を伝えるときはそうしてはなりません。短い言葉で言わなくても読み取れる言葉を削っていくことが相手に一番伝わる方法だと聞いて私は驚きました。重要な情報を相手に受け取ってもらえるかが通訳の人には必要な力なのだと知りました。(略) 英語日本語どちらの言語にせよ“理解”“解釈”“表現”を同時にできるようにしていきたいと思います。

・翻訳通訳をする上で、「相手がどんな人で、何の目的をもってどうやって伝えるべきか」を考えるとありましたが、よくよく考えてみれば自分たちは無意識にこれらのことを日常生活でしているんだなと思いました。先生と話すときと小学生の子と話すのでは話し方が変わるし、相手にとってわかりやすい言葉を選ぶことは普段からしていることなんだなと。けれど、これらを意識的に行うのは難しいことなんだなとも思いました。

・翻訳をするときに、素人よりもプロの方が何度も見直すと聞いて驚きました。また、言葉を置き換えるだけでなく、表現を作る、ということに強く印象を受けました。